

樹医からのアドバイス (Vol.04)

出雲市樹医センター

樹医 渡部 勝

～サクラの枝がほうきのようになっていませんか？～

寒い冬を越え、暦の上ではもう春がやってきますね。春といえばサクラですが、幹や枝からほうきのようにたくさんの小枝が出ている木が見られます。これは全国のサクラの名所で悩みの種になっている、「てんぐ巣病」です。

「サクラてんぐ巣病」とはどんな病気？

この病気は、タフリナ菌というカビの一種によっておこる伝染病です。病気にかかった部分は小枝が密生し、ほうきや鳥の巣のように見えます。この病気は他の種類の木にもかかりますが、サクラは特にかかりやすく、放置しておくと花が咲かなくなり、やがては枯れてしまいます。花の咲く時期には、病気の枝には花が咲かずに葉が出るのでよく目立ちます。

防除方法は？

現在、最も効果的な防除方法は、病気の枝を付け根から切除して伝染源をなくすことです。切除の時期は病気の枝が見分けやすいこと、胞子が飛散する前であること、枝切りに適した時期であることなどから、落葉期が最も適しています。今年の新葉が出るまでには切除しましょう。また、サクラは腐りやすいので、切り口には癒合剤を塗布しましょう。



「サクラてんぐ巣病」にかかった枝